

平成 30 年度（2018 年度）

事業報告

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)

静岡県磐田市新貝 2 5 0 0 番地

目 次

【事業報告】

○事業の概況	2
○事業別の状況	
Ⅰ．スポーツチャレンジ助成事業（公１）	3
1．スポーツチャレンジ研究助成・体験助成	3
2．助成事業の一環としてのフォローアップ活動	5
Ⅱ．スポーツチャレンジ体験事業（公２）	7
1．ヨットスクール・競技会の開催・運営	7
1）ヨットスクールの運営	
2）競技会の開催	
2．水辺・自然体験・スポーツ体験等の促進を目的とした教材の提供、体験会等の開催	10
1）教材の提供	
2）体験会等の開催	
① タグラグビー体験会の開催	
② 全国児童 水辺の風景画コンテストの開催	
③ その他の体験会等の開催	
Ⅲ．スポーツチャレンジ啓発事業（公３）	14
1．表彰（スポーツチャレンジ賞）	14
2．調査研究、シンポジウム等の開催	16
3．その他情報発信	21

【事務報告】

1．理事会、定時評議員会他	22
---------------	----

【事業報告】

○事業の概況

2018 年度を振り返りますと、平昌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会、FIFA ワールドカップロシア大会、アジア競技大会・パラ競技大会（インドネシア）、ユースオリンピック（アルゼンチン）など数多くの国際舞台で、日々研鑽を積んできた日本代表選手が大活躍を見せてくれました。中でも当財団スポーツチャレンジ助成対象者で女子フィギュアスケートの紀平梨花さん（第 11.12 期）が、日本勢初のグランプリシリーズデビュー戦優勝に続き、グランプリファイナル、4 大陸選手権をも制覇するという快挙を成し遂げたほか、アジア競技大会女子ボウリングの石本美来さん（第 11 期）、自転車競技の梶原悠未さん（同）が優勝するなど、身近な若い世代のチャレンジャーの活躍に、私たちも心が躍り、大いに勇気づけられました。

当財団の 2018 年度は、事業の更なる「質」の向上と、「社会的価値」の向上を目指した中期事業方針（Active5）2 年目として、関係の皆様のご協力を得ながら各事業を推進してきました。

助成事業では、第 13 期となるチャレンジャー 29 名の選考。スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングでのスポーツ体験を含む合宿型研修の復活や、体験チャレンジャーと研究チャレンジャーとの異分野交流の促進。また、事務局によるチャレンジ現場の訪問と取材に基づく、生の情報を関係者及び広く社会に発信する活動にも注力してきました。

体験事業では、春の風物詩とも言われるセーリング・チャレンジ・カップ I N 浜名湖は、前回に続き過去最多の参加者となり、学べる競技会としても定着。J Y S 葉山 40 年、水辺の風景画コンテスト 30 年の各周年行事や、水辺活動団体とのコラボレーションによる「親子で学ぶ水辺の安全教室」のトライアル。啓発事業では、第 11 回スポーツチャレンジ賞受賞者の選考。調査研究プロジェクトにおいては障害者スポーツ振興に関わる社会環境（マクロ視点）調査と地域現場での実態調査（ミクロ視点）を並行して展開する一方、日本トップリーグ連携機構と加盟団体等の協力を得て調査を実施しました。また、こうした各事業の推進状況や考察など、情報発信を質量両面から充実する取組みにも注力し、昨年よりさらに一歩前進できたものと捉えています。

2019 年度は、Active 5 の 3 年目として、助成事業では、引き続き Y M F S としてのオリジナリティーを磨き、より活性化・進化したプログラムを目指し、継続的改善に努めること。体験事業では、「よりスポーツ現場の近くで！」を視点に社会的課題や地域ニーズを踏まえた事業モデルの研究を進めること。啓発事業では、それぞれのチャレンジ現場発の情報を大切にし、スポーツのもつ多面的な価値・有用性に関する情報を精力的に発信するなど、引き続きアクティブな姿勢で取り組んでいきます。こうした持続的な取組みを通じて、障害のあるなしに関わらず、誰もがスポーツを身近に親しみ、チャレンジと活力に満ちた社会づくりに向けて、微力ながら貢献していきたいと考えています。関係の皆様には変わらぬご支援をお願い申し上げます。

○事業別の状況

I. スポーツチャレンジ助成事業 <公1>

本事業では世界に羽ばたく逞しい人材の育成をめざし、スポーツ医・科学、スポーツ文化など、スポーツに関連する幅広い分野から、スポーツの普及・振興や競技水準の向上につながる学術的価値の高い学問・研究活動に対し助成（研究助成）するとともに、スポーツを通して夢・目標の実現に向かってチャレンジするアスリート、指導者、審判、ジャーナリストなどの分野から、高い志、明確な目的・目標、そして具体的プロセスを持ったチャレンジスピリット、フロンティアスピリットあふれる体験活動に対して助成（体験助成）を行っています。

1. スポーツチャレンジ研究助成・スポーツチャレンジ体験助成

1) 2018 年度（第 12 期）の助成概要

●2018 年度助成事業の助成額と件数

分 野	2018 年度（第 12 期）	2017 年度（第 11 期）
体験助成	11 件（11,650,380 円）	15 件（12,035,000 円）
研究助成	14 件（13,893,920 円）	13 件（13,945,900 円）
合 計	25 件（25,544,300 円）	28 件（25,980,900 円）

2) 2019 年度（第 13 期）に向けた活動

2019.年度助成に向けて、全 29 件（総額 28,679,838 円）を採択しました。

① 募集概要

募集期間		2018 年 9 月 1 日（土）～10 月 31 日（水）		
告知方法		・ニュースリリース及び、関係大学、競技団体等への案内 ・当財団ホームページにて応募要領を掲載		
助成分野・区分		応募資格	助成金額／件	助成件数
体験助成	アドバンスド	世界選手権など国際レベルでの実績を有する、中学 3 年生以上（応募時）の個人および、これによって構成されるグループ・団体	上限 150 万円	10 件程度
	ベーシック	世界選手権など国際レベルを目指す、中学 3 年生以上（応募時）の個人および、これによって構成されるグループ・団体	上限 100 万円	
	ジュニア	ジュニア世代の国際大会での実績を有する、中学 1 年生以上（応募時）の個人および、これによって構成されるグループ・団体	上限 50 万円	5 件程度
研究助成	基 本	研究機関等で研究職として活動に従事する、満 40 歳未満（応募時）の個人および、これによって構成されるグループ・団体。国籍不問。	上限 120 万円	10 件程度
	奨 励	大学院博士後期課程に在籍中または学位未修得者で、満 30 歳未満（応募時）の個人および、これによって構成されるグループ・団体。国籍不問。	上限 60 万円	5 件程度

② 審査委員会の開催

●第1回審査委員会（書類選考）

審査分野	日 程	会 場	審査委員
体験助成	2018 年 12 月 6 日（木）	都内御茶ノ水 ソラシティカンファレンスセンター	4 名
研究助成	2018 年 12 月 7 日（金）		6 名

●第2回審査委員会（面接選考）

審査分野	日 程	会 場	審査委員
体験助成	2019 年 1 月 17 日（木）	都内御茶ノ水 ソラシティカンファレンスセンター	5 名
研究助成	2019 年 1 月 18 日（金）		8 名

③ 応募状況および採択の結果（チャレンジャーの決定）

分 野	2019 年度（第 13 期）			2018 年度（第 12 期）		
	区 分	応募件数	採択件数	区 分	応募件数	採択件数
体験助成	アドバンスド	20	5	アドバンスド	20	5
	ベーシック	16	7	ベーシック	31	5
	ジュニア	4	3	ジュニア	3	2
	（計）	40	15	（計）	54	12
研究助成	基 本	23	8	基 本	34	11
	奨 励	30	6	奨 励	22	3
	（計）	53	14	（計）	56	14
	（合 計）	93	29	（合 計）	110	26

※ 別紙参照 1. 第 12・13 期 助成対象者

④ 助成金採択実績

分 野	2019 年度（第 13 期）	2018 年度（第 12 期）
体験助成	15 件（15,929,838 円）	11 件（11,650,380 円）
研究助成	14 件（12,750,000 円）	14 件（13,893,540 円）
助成額合計	29 件（28,679,838 円）	25 件（25,544,300 円）

⑤ 助成金贈呈式

助成金贈呈式は、例年同様にスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの中で開催しました。

- ・ 第 12 回「YMFS スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」にて実施しました。
- ・ 2019 年 3 月 1 日（金）～2 日（土） 会場：千葉県リソル生命の森

2. 助成事業の一環としてのフォローアップ活動

チャレンジの成果と同様に、そこに至るプロセスを大切にしている当財団の助成制度では、助成対象者に対して、P D C A（Plan Do Check Action）を基軸に、活動の振り返りや、異分野交流を通じた相互刺激や気づきの機会を提供するなど、フォローアップのプログラムを実施しています。

1) 四半期活動報告書の提出

助成開始時に提出したチャレンジ年間計画に対し、四半期ごとの進捗状況を、C N S（チャレンジャーズ・ネットワーク・システム）を介して報告させ、審査委員長（又は審査委員）より一人一人にアドバイスを行っています。

2) 中間報告会の開催

中間報告会では、チャレンジャーから上半期の活動経過を報告し、チャレンジャー相互や審査委員も含めた活発な質疑応答がなされました。

また、前年に引き続き、「チャレンジする心の持ち方・高め方」の観点から、本年度は「心技体の技に着目して」をテーマに座談会を開催し、東京理科大学市村志朗先生を講師に、グループ討議で議論を深めました。

●2018 年度中間報告会

日 程		会 場	チャレンジャー	審査委員
第 1 回	9 月 21 日（金）	御茶ノ水トライエッジ	6 名	7 名
第 2 回	9 月 22 日（土）		8 名	6 名
第 3 回	10 月 12 日（金）		7 名	6 名
第 4 回	10 月 13 日（土）		5 名	4 名

3) 成果報告会および修了式について

年度末の時期に新旧チャレンジャーと審査委員が一同に会して、1 年間のチャレンジ成果や課題を確認するとともに、異分野交流を通じて多様な価値観に触れ、一人ひとりがスポーツについて「語り」「学び」「考える」機会を提供することを目的として、スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングを開催しています。

●第 12 回 YMFS スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング概要

会 場	千葉県リソル生命の森 日本メディカルトレーニングセンター他		
日 程	平成 31 年 3 月 1 日（金）～2 日（土）（2 日間）		
＜1 日目＞ 3 月 1 日（金）	・13 期生助成金贈呈式	参加者（56 名） 助成対象者、審査委員、役員・事務局	
	・12 期生成果報告会		
	・スポーツ体験会		
	・交流会		
＜2 日目＞ 3 月 2 日（土）	・12 期生成果報告会	参加者（54 名） 助成対象者、審査委員、役員・事務局	
	・特別講演会 負けたのに「楽しめました」は本当か？ 講師：源 純夏 氏 シドニー五輪競泳銅メダリスト 徳島ライフセービングクラブ代表		
	・12 期生 修了式		

4) スポーツチャレンジ助成表彰

現在または過去に本助成制度を受け、成果報告会等で報告されたチャレンジャーの中から、優れた成果を上げ、スポーツ振興に貢献されたチャレンジに対し、審査委員会での選考を経て、スポーツチャレンジ助成「特別賞」、「優秀賞」を贈呈したほか、平昌パラリンピック出場した選手に対して規程に基づいて「激励賞」を贈呈し、更なるチャレンジを支援しました。

- ① 特別賞 助成対象者が世界の舞台で、世界に伍する成果を発揮し、スポーツ振興およびスポーツレベルの向上に、大いに貢献したと認められた者に対して表彰する。
- ② 優秀賞 助成特別賞に準ずる成果及び、貢献が認められた者を表彰する。
- ③ 激励賞 当該年度においてオリンピック、パラリンピック、デフリンピック等の国際的なスポーツ総合競技大会等に日本を代表して出場する者を表彰する。

●表彰対象者

賞名称	氏 名	助成 区分	受賞理由	表彰
特別賞	紀平 梨花	体験 アドバンスド	国際大会 6 連勝の快挙など 誰もが認める成果を達成。満場一致で獲得	別途表彰
優秀賞	上村 勇貴	体験 ベーシック	チャレンジ目標であった世界大会での表彰台を達成	第 12 回 SCM 会場にて表彰 2019.03.02.
	森田 哲史	研究 基本	体育授業における発達の段階に応じた指導計画の 開発～好意度を高めることを明らかにした。	
激励賞	山本 篤	体験 O B	平昌パラリンピック（スノーボード） 出場	別途表彰
	本堂 杏実	〃	平昌パラリンピック（アルペンスキー） 出場	〃

5) 情報公開

スポーツチャレンジ助成対象者のチャレンジの実像や、当財団のフォローアップ活動の様子を社会に発信することを通して、スポーツにかかわる人たちの意識向上を促すとともに、スポーツの持つ価値や有用性を社会に訴求していくことを目的に、当財団ホームページを通じてさまざまな情報を広く社会に発信しています。

上記に加え、当財団事業に共感、協力戴く、事業関係者との情報共有を高めるため、フェイスブックや情報誌「YMFS 通信」の情報内容を充実させ、発信頻度を高めるなどの活動を行ってきました。

Ⅱ. スポーツチャレンジ体験事業 <公2>

社会環境や家庭環境の変化の中で、体力・運動能力の低下や、水辺や自然の中での体験機会がなくなっていると言われる中で、次代の人材育成の基礎となる、心身ともに健全な子どもたちの育成をめざし、スポーツや自然がより身近なものとなるさまざまな運動機会や自然・水辺体験機会の創出を目指しています。本事業では、「子供たちのスポーツ現場のより近くに」を大切な視点に置いて、私たちの持つ事業リソースを活かし得る分野でさまざまな体験機会を提供しています。

1. ヨットスクール・競技会の開催・運営

1) ヨットスクールの運営

心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を目的に、小学生から高校生を対象として、通年型（4月から翌年3月）のスクールを、神奈川県葉山町葉山マリナを拠点に運営しています。

世代別や個々のセーリング技術のレベルに合わせた独自のクラス分け（ベーシック・マスター・エキスパート・クラブ/レーシング）を行い、これに沿ったカリキュラムにより、原則、月2回から3回の通常練習を行なっています。

2018年度は34名のスクール生を対象に、セーリング指導、強化練習に加え、水辺活動や安全対策の体験、ボランティア活動など、より総合的な視点でプログラムの運営に努めています。

加えて近年の取組みとして、逞しい心や競う力も養うことを目的に、葉山スクール周辺で開催される対外レースに積極的に参加しています。

（スクールの指導理念）

「自主・自律・想像（創造）」

セーリングスポーツと自然体験を通して、子どもたちを逞しく

●スクールの主な活動

1. 年度初めの段階で1年間の目標を設定し、P D C A（Plan Do Check Action）に基づく指導
2. セーリングに関する適切な知識、経験、技能を備えた指導者による適切な指導
3. 逞しい心や競う力を養う目的から、葉山スクール周辺で開催される対外レースを中心に積極的に参加
4. 夏季には集中的に取り組む強化練習の実施
5. 「自然・水辺体験学習」を取り入れた、より総合的なプログラムを通じて、海、水辺、海事に関する安全啓発
6. スクールの指導理念や活動状況を共有し、理解協力を促進する目的で保護者会を年2回開催
7. 1年間の成果と課題確認の機会として「第27回Y M F S セーリング・チャレンジカップ I N 浜名湖」へ参加
8. 平成30年度は、設立40周年を迎え、6月と9月にスクール生や指導者及びO Bも集合して記念行事

●通常練習以外の主な活動

実施内容			日 程	場 所
2018 年				
1	江ノ島ノルウエーフレンドシップヨットレース	4 名出場	4 月 21～22 日	江ノ島
2	J O C ジュニアオリンピックカップ 2018	2 名出場	5 月 3～6 日	佐賀県唐津市ヨットハーバー
3	藤沢チャンピオンレース	1 名出場	6 月 2 日	江ノ島
4	ジュンレガッタ	9 名出場	6 月 17 日	江ノ島
5	J Y S 葉山設立 40 周年記念イベント	80 名参加	6 月 23 日	葉山マリーナ
6	第 9 回水辺の安全講習会 (協力) 日本ライフセービング協会	23 名参加	7 月 16 日	葉山町漁協組合会館
7	JOC ジュニアオリンピック (兼) JSAF ジュニア・ユースチャンピオンシップ	1 名参加	7 月 21～22 日	和歌山マリーナシティ
8	サマーレガッタ	3 名出場	7 月 27～29 日	江ノ島
9	第 16 回全国中学校ヨット選手権	1 名出場	7 月 27～29 日	香川県高松市ヨット競技場
10	強化練習	15 名参加	7 月 30～8 月 1 日	葉山マリーナ
11	国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会	1 名出場	8 月 3～5 日	別府港北浜ヨットハーバー
12	2018 レーザーラジアルユース W C S	1 名出場	8 月 18～25 日	ドイツキール
13	第 36 回東日本 O P 級セーリング選手権	8 名出場	8 月 23～26 日	浜名湖
14	フレンドシップレガッタ大使館レースサポート	4 名参加	9 月 8 日	葉山マリーナヨットクラブ
15	ミキハウス東京カップ 2018	5 名出場	9 月 9 日	東京若洲
16	J Y S 葉山設立 40 周年記念イベント	84 名参加	9 月 9 日	葉山マリーナ
17	ASAF セーリングカップ ／JSAF オリンピックウィーク	2 名参加	9 月 21～24 日	江ノ島
18	保護者会		9 月 23 日	葉山マリーナ
19	第 73 回国民体育大会	2 名出場	9 月 30～10 月 3 日	福井県高浜町若狭和田マリーナ
20	第 32 回小沢吉太郎記念少年少女レース	7 名出場	10 月 7～8 日	江ノ島
21	2018 レーザー級全日本選手権	2 名出場	11 月 1～4 日	鳥取県境港公共マリーナ
22	第 50 回全日本 O P 級選手権	3 名出場	11 月 23～25 日	江ノ島
23	2018 ジュニアユースクリスマスカップ	7 名出場	12 月 16～17 日	江ノ島
2019 年				
24	2019 オーストラリア ユース選手権	1 名出場	1 月 6～16 日	オーストラリア シドニー
25	江ノ島ミッドウインターカップ (大会中止)	3 名	1 月 19～20 日	江ノ島
26	2019 レーザーミッドウインターレガッタ	2 名出場	2 月 8～11 日	江ノ島
27	冬風ヨットレース	3 名出場	2 月 17 日	江ノ島
28	平成 30 年度修了式、保護者会	43 名参加	3 月 10 日	葉山マリーナ
29	第 27 回 YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖	9 名	3 月 21～23 日	静岡県立三ヶ日青年の家

2) 競技会の開催

本事業は、心身ともに健全な子どもたちの育成を目的に、全国のジュニア・ユースセーラーが一堂に会し、日頃の練習成果の確認や、次年度の目標確認の場として、また、選手・指導者同士の交流や、全体的レベルアップと技術向上に資するため、選手及び指導者を対象として、元五輪日本代表等による技術指導、レースにおける戦略、戦術に関する勉強会などを行い、「学べるレガッタ」を特徴として開催しています。

●第 27 回 YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖の概要

開催日時	2019 年 3 月 21 日（木）～23 日（土）（3 日間）
開催場所	静岡県立三ヶ日青年の家
共同主催	（公財）ヤマハ発動機スポーツ振興財団、NPO 法人静岡県セーリング連盟
公認団体	（公財）日本セーリング連盟（承認番号 H30-50）
運営協力	NPO 法人静岡県セーリング連盟
助 成	（独法）日本スポーツ振興センター「スポーツ振興くじ助成金」 JSC への事業実績報告金額 4,329,000 円 当該助成金は、指導講師、医師、審判員・スタッフ等への謝金、大会役員への宿泊費・交通費、運営艇等の借用料・運送料等に使用しました。 
協 賛	三井住友海上火災保険（株）、ヤマハ（株）、（株）ワイズギア、（株）舵社、（株）ヤマハトラベルサービス、（株）ノースセール・ジャパン、パフォーマンスセイルクラフトジャパン（株）、（有）SAIL FAST
後 援	スポーツ庁、（公財）日本スポーツ協会、静岡県、静岡県教育委員会、（公財）静岡県体育協会、浜松市、浜松市教育委員会、（公財）浜松市体育協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、静岡朝日テレビ、NHK 静岡放送局、静岡第一テレビ、テレビ静岡、K-mix、FM Haro!、日本オブティミストディンギー協会、日本レーザークラス協会、日本 420 協会
協 力	静岡県立三ヶ日青年の家、ヨットリーダーズクラブ、南平自治会
出場選手	北海道から沖縄まで 44 クラブ（140 隻／164 名）が出場。（過去、最大の大会）
競技種目	OP 級、ミニホッパー級、レーザー4.7 級、レーザーラジアル級、420 級 ※国際レーザー 4.7 級、レーザーラジアル級は、世界選手権国内選考会を兼ねる。
特別講師	佐々木 共之氏 日本レーザークラス協会 強化委員会委員長、アトランタ・シドニー五輪出場 中村 健次氏 J S A F オリンピック強化委員会統括コーチ ソウル五輪他 3 大会に出場 白石 潤一郎氏 日本レーザークラス協会強化委員会スタッフ 広州アジア大会銀メダル 永井 久規氏 J S A F ジュニアユース育成強化委員会副委員長 O P 級代表コーチなど 高橋 昌威氏 日本レーザークラス協会強化副委員長 ユース世界選手権コーチ帯同など

※ 別紙参照 2. 第 27 回「YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」参加団体と上位入賞者

2. 水辺・自然体験・スポーツ体験等の促進を目的とした教材の提供、体験会等の開催

1) 教材の提供

本事業は、スポーツ教材の活用を通じて、子どもたちが楽しく体を動かすきっかけとなり、スポーツ好きな子どもの増加、体力・運動能力の向上、心身の健全な育成の一助となることを目的に、全国の幼稚園、小学校、ジュニアスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブなどを対象に実施しています。また、教材提供先には、活用報告書を提出戴き、模範的な活用事例は、当財団ホームページ等に掲載して社会啓発に努めています。

●2018 年度「スポーツ教材の提供」の概要

募集期間	2018 年 4 月 13 日（金）～6 月 8 日（金）
使用対象	幼児から小学生
提供対象	「子どもたちがスポーツを楽しみ、好きになるような取組み」を計画している団体（保育園、幼稚園、小学校、特別支援学校、児童養護施設、教育委員会、体育協会、スポーツ少年団・クラブ・スクールなどスポーツに取り組む団体
提供教材	① サッカーボール ②タグラグビーセット
募集方法	当財団ホームページおよび教育委員会など通じて告知
選考方法	書類審査の上、第三者による抽選により決定
結果通知	当財団ホームページに抽選結果掲載後、提供先団体へメールにて通知
提供方法	7 月上旬に提供団体へ発送

●申請状況および抽選結果

申請数	675 団体（前年度 875 団体）
抽選会	6 月 14 日（木）（公財）日本スポーツ協会 副会長 泉 正文氏による抽選
抽選結果	120 校・団体（前年度 120 校・団体）

※ 別紙参照 3. 平成 30 年度 スポーツ教材の提供先団体

2) 体験会等の開催

① タグラグビー体験会の開催：「はじめてのタグラグビー教室の開催」

ヤマハ発動機（株）の協力を得て、直接指導可能な当財団所在地の周辺地域（静岡県西部地域の磐田市・袋井市・掛川市・周智郡森町）をモデルエリアとして、当地区の小学校を対象に募集を行い、申請のあった 5 校に実施しました。その結果、児童 293 名と教員が参加した活動になりました。

●2018 年度 実施校

実施した小学校		日 程	児童対象
1	周智郡森町立森小学校	6 月 4 日（月）	121 名
2	周智郡森町立宮園小学校	6 月 11 日（月）	92 名
3	周智郡森町立飯田小学校	6 月 18 日（月）	33 名
4	周智郡森町立三倉小学校	6 月 27 日（水）	17 名
5	周智郡森町立天方小学校	9 月 19 日（水）	30 名
合 計 小学校 5 校		5 回	293 名

② 全国児童 水辺の風景画コンテストの開催

本事業は、子どもたちの自然体験や水辺体験の促進が社会的な課題となっている中で、小学生以下の児童・幼児を対象に、海や川などの水辺に出かけ、そこで得た、さまざまな体験をテーマに絵を描くことによって、水辺への興味・関心を高め、また、表現力や感性を育むことを目的として絵画コンテストを開催しています。

このコンテストは、水辺の絵を描くことを1つのきっかけに、実際に海や川など水辺や自然の中での実体験を促す目的から、啓発事業ではなく、あえて体験事業に位置付けて運営しています。

●第30回全国児童 水辺の風景画コンテストの概要

募集期間	2018年6月1日（金）～9月25日（火）
対 象	小学生および幼児
募集方法	当財団ホームページおよび募集リーフレットなどにて告知
協 賛	Love the Earth 実行委員会、三井住友海上火災保険（株）、（株）舵社、マルマン（株）、（株）ワイズギア
特別協賛	ヤマハ発動機株式会社
後 援	文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、（一社）日本マリン事業協会、（公社）日本ユネスコ協会連盟、（NPO）ジャパングームフィッシュ協会、（一社）日本マリーナ・ビーチ協会、（独法）国立青少年教育振興機構、（一財）日本海洋レジャー安全・振興協会
審査日程	予選会：10月16日（火）本選会：10月30日（火）
受賞者発表	11月7日（水）
表 彰	最優秀賞：文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞 特別賞：審査員長賞、日本マリン事業協会会長賞、日本ユネスコ協会連盟賞、日本マリーナ・ビーチ協会会長賞、ジャパングームフィッシュ協会会長賞、国立青少年教育振興機構理事長賞、ヤマハ発動機賞、Y M F S 特別賞 優秀賞：金・銀・銅賞（幼児、小学校低学年・高学年各部門） 入 選：676点（入賞作品42点、秀作258点、佳作376点） 団体賞：16団体（過去10年間継続して応募された団体）
応募状況	作品数：9,928点（前年度9,696点） 団体数：662団体（前年度679団体）

●審査会について

審査会	内 容	日 程	会 場	審査員
予選会	専門家による審査を行い、入選作品決定	10月16日（火）	ヤマハ発動機株式会社 コミュニケーションプラザ	4名
本選会	専門家、後援省庁および団体による審査で入賞作品決定	10月30日（火）	都内日展会館	18名

●各大臣賞表彰式

賞 名	日 程	開催会場	贈呈者
農林水産大臣賞	11月27日（火）	高知県土佐市立 高岡第一小学校	同校校長 水田眞由美 氏
文部科学大臣賞	12月3日（月）	吉野川市立西麻植小学校	創元会理事長、本コンテスト審査員 小川尊一氏
環境大臣賞	12月4日（火）	品川区立第二延山小学校	創元会顧問、本コンテスト審査員長 工藤和男氏
国土交通大臣賞	12月10日（月）	稲城市立城山小学校	国土交通省関東地方整備局 東京 港湾事務所長 酒井敦史氏

※ 別紙参照 4.第30回全国児童水辺の風景画コンテスト

●入賞作品紹介

情報公開	当財団ホームページにて掲載
作品展示	「ジャパンインターナショナルボートショー2019」（3月8日～11日。横浜市・パシフィコ横浜）にて展示 ※ 公式入場者数： 55,243 人（前年度 53,400 人）
	ヤマハ発動機（株）コミュニケーションプラザ2F（1～2月）にて展示

③ その他の体験会等の開催（トライアル事業）

近年の社会環境や家庭環境の変化を背景に、子どもたちが自然の中や水辺において、さまざまな活動や体験をする機会が減少していると言われていた中で、心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成する上で、身近にこれらを体験する機会を提供することが必要との認識から、当財団がこれまでの事業で培ってきた知見やネットワーク等を有効活用して、貢献することを目的に、当財団所在地周辺の地域を対象に、本年度からトライアルとしての事業を始めました。

今後、トライアル事業を実施する中で、地域社会や子どもたちのニーズや課題などを分析しつつ、持続的な事業としての道筋を考えていきます。

●親子で学ぶ水辺の安全教室

開催日	プログラム	会場	参加者
第1回 6月2日（土）	1.座学・講義 水難事故例、事故に遭遇時の注意事項 （浜松北消防署三ヶ日出張所 消防署員 水野 信氏他） 2.実技講習 ライフジャケット装着方法、胸骨圧迫、A E D使用法 （浜松ライフセービングクラブ 理事長 古橋 理 氏他3名） 3.水辺の乗り物体験 ① ダブルハル カヌー ②ローボート （運営協力：三ヶ日青年の家）	静岡県立 三ヶ日青年 の家	9名

開催日	プログラム	会場	参加者
第2回 9月17日（月）	1.実技講習 ライフジャケット装着方法、胸骨圧迫、A E D使用法 （浜松ライフセービングクラブ 理事長 古橋 理 氏他3名） 2.水辺の乗り物体験 ① ダブルハル カヌー （親子） ② ニッパーボード （子ども） ③ スタンドアップ パドルボート（保護者） ④ ハドルポジション （親子） （運営協力：三ケ日青年の家）	静岡県立 三ケ日青年 の家	28名

●ダンボールボート制作／体験教室 （静岡県立三ケ日青年の家とのコラボ開催）

水辺安全教室に加えて、船の基本原理を学び、仲間と工作して体験する、ダンボールボート製作、乗船体験イベントをトライアルとして行いました。今後の本企画への関心やニーズなどを踏まえて継続可否を検討していきます。

開催日	カリキュラム	会 場	参加者
9月8～9日 （土・日）	1.船の基本的な原理の理解 2.ダンボールを使った船を工作する 3.出来上がった船を水に浮かべて乗船する 4.材料リサイクルの仕組みを理解し、分別の実践 （講師）竹原克紀 氏 ヤマハ発動機社員OB （資材）ヤマハ発動機（株） （視察）静岡県教育委員会事務局 社会教育課	静岡県立 三ケ日青年の家	静岡県 西部地域の小学 校 4・5年生 32名

Ⅲ. スポーツチャレンジ啓発事業 <公3>

本事業では、誰もがスポーツに親しみ、チャレンジと活力にあふれる社会の実現をめざし、事業活動の現場から、スポーツの持つ価値や有用性、環境整備など、スポーツ振興に関する情報発信や提言を行います。

具体的には、スポーツ振興に大きく貢献した人物・団体を表彰するスポーツチャレンジ賞。スポーツ振興に関わる社会環境や実態調査を元に、社会に提言活動を担う調査研究プロジェクト。そして当財団各事業に関わるさまざまな情報を社会に発信する活動を行っています。

1. 表彰（スポーツチャレンジ賞）

本事業は、スポーツ振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物・団体を表彰するものです。スポーツに関する技術、指導、研究、普及、ジャーナリズムなど幅広い分野において、輝かしい功績をあげ、且つ、これまで注目を浴びることの少なかった「縁の下の力持ち」的な人物・団体を対象としている点が本賞の特徴となっています。尚、本賞は「功労賞」と「奨励賞」の2部門で構成されています。

●本賞の概要

功労賞	内 容	長年もしくは過去に行われ、現在のスポーツ振興の礎となるような貢献や、先駆的な実績を誇るチャレンジで、注目を浴びることの少なかった、本来高い評価を得るに相応しい、「縁の下の力持ち」的な存在を表彰します。
	対象者	既に優れた成果をあげ、功をなした人物・団体
奨励賞	内 容	短期的もしくは中期的に行われ、その年、極めて高い成果をあげ、今後のスポーツ振興に大きな影響力の発揮が期待されるチャレンジで、注目を浴びることの少なかった本来高い評価を得るに相応しい、「縁の下の力持ち」的な存在を表彰します。
	対象者	その年、高い成果をあげ、今後さらなる成長が期待される人物・団体
後 援	(公財) 日本スポーツ協会、(公財) 日本オリンピック委員会 (公財) 日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会	

●第10回 スポーツチャレンジ賞表彰 (平成29年度からの継続活動)

候補者募集	平成29年9月15日(金)～11月13日(月)
選考委員会	第1回 平成29年12月7日(木)、8日(金) 第2回 平成29年1月18日(木)、19日(金)
表彰式	平成30年4月13日(金) 都内如水会館
受賞者	(奨励賞) 狩野 美雪(かのう みゆき)氏 デフバレーボール日本代表女子チーム監督 「トップ選手の経験を活かした指導で、デフリンピック日本女子代表を金メダルに導く」
参加者	受賞者、推薦者、応援者、報道機関、選考委員、理事等関係者 合計約60名
情報公開	・当日の様子は当財団ホームページにて公開・掲載 ・受賞者の功績や、知られざる足跡など詳細情報を、当財団ホームページ、スペシャルウェブコンテンツ(特集記事)「BACK STORIES(バック・ストーリーズ)」の中で紹介

●第11回 スポーツチャレンジ賞表彰の概要

候補者募集		平成30年9月14日（金）～10月31日（水）
選考委員会		第1回 平成30年12月6日（木）、7日（金）都内会場 第2回 平成31年1月17日（木）、18日（金）都内会場
表彰式		平成31年4月15日（月） 都内如水会館
受賞者	功 労 賞	荒井 秀樹（あらい ひでき） 日本パラリンピックノルディックスキーチーム監督 「パラノルディックスキー、ゼロからの挑戦」 推薦者： 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
	奨 励 賞	日本スケート連盟 スピードスケート科学サポートチーム 「平昌オリンピックのスピードスケートマススタートおよびチームパシュート競技へ向けたレース分析サポート」 推薦者： 公益財団法人日本スケート連盟
情報公開		・当日の様子は当財団ホームページにて公開・掲載 ・受賞者の功績や、知られざる足跡など詳細情報を、当財団ホームページ、スペシャルウェブコンテンツ（特集記事）「BACK STORIES（バック・ストーリーズ）」の中で紹介

2. 調査研究、シンポジウム等の開催

スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的課題の解決に寄与するため、当財団の特徴を活かし得る分野において調査研究活動を行い、その成果を広く社会に発信しています。

7 年目となる障害者スポーツ分野では、地域現場（ミクロ的な視点）の実態調査として、①前年の静岡県における実態調査の報告、啓発活動、県民意識調査等を実施。新たに②先進的な地域活動を展開する福岡県の調査を行うとともに、従来のシンポジウムに替え、本年の地域調査のまとめとして、福岡県での実態調査に協力戴いた関係者との座談会を開催しました。また、横断的な障害者スポーツに関わる社会環境（マクロ的視点）調査として、③先進事例としての大学、パラリンピアン、パラスポーツ競技団体の実態に関する調査活動を行いました。トップスポーツ分野においては、日本トップリーグ連携機構の協力を得て、「トップスポーツを活用した地域活性化」をテーマとした調査活動を展開しました。

<障害者スポーツ・プロジェクト>

●プロジェクトミーティング開催実績

回	開催年月日	会場	テーマ	出席者
第 1 回	平成 30 年 6 月 1 日（金）	名古屋市内	2018 年度調査計画他	9 名
第 2 回	平成 30 年 8 月 28 日（火）	名古屋市内	各調査の進捗と今後の進め方他	6 名
第 3 回	平成 30 年 11 月 12 日（月）	名古屋市内	各調査の進捗と今後の進め方他	6 名
第 4 回	平成 31 年 1 月 30 日（水）	都内会場	各調査の進捗と次年度の方針他	6 名
第 5 回	平成 31 年 3 月 12 日（火）	都内会場	本年度総括と次年度活動計画	9 名

1) 地域現場（ミクロ的視点からの）における実態調査

1) - 1 静岡県での活動

① 障害者スポーツ指導者を対象とした研修会

前年度実施した地域実態調査のフィードバックと有効活用を目的に、静岡県障害者スポーツ協会と連携して調査報告とグループワークを通じて共有をしました。

開催日	会場	講師	対象者	参加数
6 月 2 日（土）	静岡県社会 福祉会館・体 育館	齊藤まゆみ氏 筑波大学体育系 准教授	静岡県内の障がい者スポーツ指導員 の資格保持者で、今年度活動に参加 予定者	約 80 名

② 障害者スポーツに関する啓発活動

2019 年開催のラグビーワールドカップを控え、県西部を対象としたイベントの機会を通じて、障害者スポーツの啓発活動を行いました。

開催日	会場	講師他	イベント内容	参加数
6 月 16 日（土）	静岡県 エコパスタ ジアム	・ウィルチエアーラグビー選手 2 名 ・静岡県知事 川勝平太氏 ・ヤマハ発動機ラグビー部及び監督清宮克之氏	ボールリレー、 セレモニー、 トークショー	約 2,300 名

③ 県民意識調査

パラスポーツへの理解促進と東京 2020 パラリンピック（サイクリング競技）の盛り上げを目的としたパラスポーツ体験イベント「しずおかパラスポーツパーク」にて当財団として出展し、前年度調査結果報告と来場者の意識調査を実施しました。

開催日	会場	主催、協力団体	イベント内容	参加者数
11月11日（日）	静岡県 小笠山 運動公園エコパ サブアリーナ	・静岡県、静岡県障害者スポーツ協会主催 ・ジャパンフェスタ（JOC、JPC、日本スポーツ協会、日本障がい者スポーツ協会）との共催。	・県内出身のpara日本代表選手他の紹介 ・ウィルチェアラグビー体験 ・para自転車の体験乗車	約600名 調査回答 127名

1) - 2 福岡県での活動

① 地域活動実態調査（福岡県、福岡市、北九州市他）

前年度の静岡県調査に続き、障害者スポーツに関する地域・現場での活動状況やキャリア、東京 2020 パラリンピック開催の影響などアンケート及び視察ヒアリングなどの調査を実施しました。

開催日	面談者	会場	参加者
7月14日（土）	第23回 福岡県障がい者水泳記録会	福岡県春日市クローバープラザ	県内障害者水泳選手120名
8月6日（月）	福岡県主催 パラスポーツフェスタ IN 田川	筑豊地区	住民138名（内健全者100名）
9月6日（木）	第13回北九州精神障害者バレー大会 （北九州市障害者スポーツ協会主催）	北九州市障害者スポーツセンター	精神障害者約80名
9月8日（土）	第38回福岡県障がい者スポーツ大会 （福岡県障がい者スポーツ協会主催）	久留米市久留米アリーナ	知的・精神障害者約1,600名
9月9日（日）	第29回北九州市障害者水泳記録会 （北九州市障害者スポーツ協会主催）	北九州市障害者スポーツセンター	身体他障害者約50名
9月23日（日）	第35回福岡市障がい者卓球祭り 「サウンド・テーブル・テニス大会」 （福岡市障がい者スポーツセンター主催）	福岡市さんさんプラザ体育館	視覚障害者約50名
9月24日（月）	第23回福岡市障がい者スポーツ大会 （福岡市障がい者スポーツ協会主催）	福岡市博多の森陸上競技場	身体・知的・精神・ダウン症などの発達障害者約700名
10月5日（金）	軽スポーツ教室 （福岡県障がい者スポーツ協会主催）	福岡市アクション福岡	知的障害のある小学生12名
10月7日（日）	第35回福岡市障がい者水泳記録会 （福岡市立障がい者スポーツセンターさんさんプラザ主催）	福岡市南区さんさんプラザ	各種障害者約200名

10月13～15日 (土) (月)	<視察> 全国障がい者スポーツ大会 2018 福井しあわせ元気大会 (福井県障がい者スポーツ協会主催)	福井県内 各種競技場	事務局として視察
11月16～18日 (金) (日)	第15回北九州チャンピオンズカップ国際車 いすバスケットボール大会	北九州市立総合 体育館	世界大会、全日本ブ ロック選抜、北九州 小学生大会を同時 開催
11月17日(土)	第16回筑豊地域 障がい者ふうせんバ レーボール大会 (嘉麻市文化スポーツ振興公社主催)	福岡県嘉麻市サ ルビアパーク	各種障害者及び健 常者
11月18日(日)	パラスポーツ体験イベント 福岡地区 (福岡県主催)	福岡市アクション 福岡	パラサイクリングや車い すフェンシングなど体 験希望者

② 地域現場における障害者スポーツ振興への取り組み（座談会の開催）

本年度障害者スポーツに関わる福岡県での調査活動のまとめとして、これまでの調査に協力戴いた関係者の皆様に参加戴き、以下のテーマについて活発な討議を行いました。

開催年月日	座談会テーマ	会場	出席者
2019年 1月17日(木)	1) 障害者スポーツ拠 点としてのあるべき 姿とはどういうもの か？ 2) 東京2020パラ 大会を踏まえ、社 会（福岡）として どのようになってい たいか？	福岡県 クローバー プラザ	・福岡県障がい者スポーツ協会 大串事務局長、染谷氏 ・福岡市障がい者スポーツ協会 小城氏 ・福岡市立障がい者スポーツセンターさんさんプラザ 坂本統括就任 ・北九州市障害者スポーツ協会 真鍋事 務局長 ・北九州市障害者スポーツセンターアレアス有延セン ター長 ・福岡障害者スポーツ指導者協議会 奥村会長、山口事務局長 ・司会 齊藤まゆみ氏、 (公財) 笹川スポーツ財団 小淵氏

2) 横断的なスポーツ社会環境（マクロ的視点から）に関わる調査

① 障害者スポーツ競技団体調査（前回 2015 年に調査）

国内の障害者スポーツ競技団体を対象に実態調査を実施し、合計 53 団体（パラリンピック競技団体:27 “夏季 24 団体、冬季 3 団体”、パラリンピック競技以外の団体:26）から回答を得ました。

※詳細は、報告書参照

② パラリンピアンに対する社会的認知度調査（前回 2015 年に調査）

“平昌 2018 パラリンピック”と“リオ 2016 パラリンピック”に出場した日本代表選手の氏名や競技種目の認知状況、“平昌 2018 パラリンピック”の観戦状況などを、全国の市町村に在住する 20 歳以上の男女約 2000 名を対象に、本年 6 月インターネットにて調査実施しました。

※詳細は、報告書参照

③ 大学ヒアリング調査

障害者スポーツの普及や指導者育成などに対して先進的な取組みをされている大学関係者への活動に関するヒアリングを実施。共生社会、インクルーシブ教育、アダプテッド体育などさまざまな視点や医療を起点とするスポーツの取り組みについてヒアリングを実施。

開催日	大学（会場）	概 要
8 月 21 日（火）	北九州市立大学	・地域ボランティア養成活動。地域現場での実習優先 ・地域団体との連携、障害当事者との人間関係づくり ・車椅子ソフトボールを通じたスポーツ教育の実践
8 月 22 日（水）	久留米大学	・スポーツ医科学学科の新設 ・地域 5 大学連携による「ふれあいフェスタ」など
8 月 29 日（水）	順天堂大学	・障害者スポーツを特別視せず、通常のスポーツの一部として扱う ・企業や地域行政との連携 ・人（スポーツ指導者）を育てることに特価した活動
9 月 10 日（月）	広島大学	・霞アダプテッドスポーツクラブの活動 （学生主導によるパラスポーツに関する活動企画と運営） ・他大学との連携協定（県内外の大学） ・広島県障がい者スポーツ協会や N P O 法人 STAND との連携

3) 調査報告書の発行

2018（平成 30）年度

障害者スポーツを取り巻く社会的環境に関する調査研究

ーパラリンピアン、競技団体、大学、地域現場に着目してー 2,000 部

4) その他調査研究成果の活用

平成 30 年 5 月 19 日（土）「第 4 回次世代につなぐ東海体育・スポーツセミナー」中京大学名古屋キャンパス
小淵委員（笹川スポーツ財団）が出席し、報告

<トップスポーツに関するプロジェクト>

●プロジェクトミーティング開催実績

回	開催年月日	会場	テーマ	出席者
第1回	平成30年 6月 4日(月)	都内会場	調査方針、目標、調査実施概要	9名
第2回	平成30年 7月 27日(金)		各調査の進捗と今後の進め方他	7名
第3回	平成30年 8月 20日(月)		各調査の進捗と今後の進め方他	8名
第4回	平成30年 10月 12日(金)		各調査の進捗と今後の進め方他	6名
第5回	平成31年 3月 6日(水)		JTL レポート内容について	6名

1) 「トップスポーツを活用した地域活性化・地域スポーツ振興活動への貢献」をテーマとする調査

日本トップリーグ連携機構の協力を得て、上記課題をテーマとする調査を実施しました。

調査目的	「トップスポーツを活用した地域活性化・地域スポーツ振興活動への貢献」を目指す調査研究活動の基礎資料を得る。また、今後予定する調査設計の参考指標を得る。
調査手法	WEB アンケートと調査票郵送の併用
対象条件	日本トップリーグ連携機構加盟チームの内、本調査実施にあたり、協力意志を示された13 リーグ（一部種目は男女を別カウント）120 チーム
サンプル数	91 サンプル（回収率 75.8%）
実査期間	平成30年7月10日（火）～8月10日（金）
調査期間	調査主体 公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団 調査協力 一般社団法人 日本トップリーグ連携機構 調査委託 株式会社サーベイリサーチセンター

2) 日本トップリーグ連携機構（JTL）事業推進委員会にて調査結果を報告

本年度から4ヵ年計画で取組んでいる「トップスポーツを活用した地域活性化および地域スポーツ振興活動調査」結果から一部速報版としてJTL 参加各リーグの事業推進委員へ報告。

開催月日	平成31年2月4日(月)
会 場	JFAハウス会議室
参加リーグ	◆プロサッカーJリーグ ◆なでしこリーグ ◆女子バスケリーグ ◆アメフトXリーグ ◆プロバスケットボールリーグ ◆ラグビートップリーグ ◆女子ソフトボールリーグ ◆ハンドボールリーグ ◆ホッケー・ジャパンリーグ ◆アジアリーグアイスホッケー ◆JTL 事務局 ◆YMF S事務局他

3. その他情報発信

当財団ホームページでは、スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与することを目的に、広く社会に対して事業活動の情報を発信しています。また、刊行物やリリース発行などでの普及広報活動の充実にも努めています。

情報発信手段	概 要
ホームページ	① 主な掲載内容 ・各事業活動の告知（案内、募集、結果報告など） ・第 12 期スポーツチャレンジ助成対象者の実像を紹介（チャレンジャーズファイルなど） ・第 12 回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの報告（講演会など） ・第 10 回スポーツチャレンジ賞受賞者の人物像を紹介（BACK STORIES） ・ジュニアヨットスクール葉山の活動紹介 ・第 27 回セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖の開催報告 ・スポーツ教材の提供の模範的な活用事例の紹介 ・第 30 回全国児童 水辺の風景画コンテストの実施報告 ・調査研究活動に関する報告書の情報など ② アクセス数（P V = PAGE VIEW） 平成 30 年：315,682 P V（平成 29 年：324,231 P V）
ニュースリリース	・スポーツチャレンジ助成 助成対象者募集、対象者決定 ・スポーツチャレンジ賞受賞者決定など計 10 件
Face Book	・スポーツチャレンジ助成事業における助成対象者（OB・OG 含む）の活動状況を対象者間、及び審査委員、事務局を含めた情報共有を促進。 ・日常行われる各事業（行事）の様子などについて事業関係者等を対象として情報共有を促進。
刊行物	・Y M F S 通信 毎月配信（配信先 約 700 か所） ・平成 29 年度年間事業報告書 Yearly Digest 500 部 ・平成 30 年度障害者スポーツを取り巻く社会的環境に関する調査研究 2,000 部 ・平成 30 年度トップスポーツに関する調査報告書 500 部

【事務報告】

1. 理事会、定時評議員会

●理事会

回	開催日時・会場	議 事
1	平成30年5月28日（月） 都内丸の内マイプラザ	<決議事項> ・第1号議案 平成29年度事業報告承認の件 ・第2号議案 平成29年度計算書類等承認の件 ・第3号議案 定時評議員会招集の件 ・第4号議案 助成対象者への表彰規程制定の件 <報告事項> ・平成29年度第3回理事会（2月）以降の事業活動他
2	平成30年10月23日（火） 都内丸の内マイプラザ	<決議事項> ・第1号議案 助成対象者への表彰規程一部（賞名称）改正の件 <報告事項> ・平成30年度上半期事業報告、下半期事業活動 ・平成30年度中間決算の概要と今後の見通し
3	平成31年2月27日（水） 都内丸の内マイプラザ	<決議事項> ・第1号議案 2019年度事業計画承認の件 ・第2号議案 2019年度収支予算承認の件 <報告事項> ・平成30年（2018）年度事業概況及び収支見通し ・その他、業務執行状況の報告

●定時評議員会

回	開催日時・会場	議 事
1	平成30年6月14日（木） 都内丸の内マイプラザ	<決議事項> ・第1号議案 平成29年度計算書類等承認の件 ・第2号議案 理事（9名）選任の件 ・第3号議案 代表理事、業務執行理事選定の件 <報告事項> ・平成29年度事業報告 ・平成30年度事業計画報告、その他